

夏休みも明け、早1ヶ月経とうとしています。あれだけ暑かった日々も、日中でなければ十分過ごしやすと感じられるようになりました。みなさまは、いかがお過ごしだったでしょうか？

今日は「キャリア教育・進路」について教育ジャーナリストの山内太地さんのコラムの一部を紹介します。保護者のみなさまとお子さまと一緒に読んでいただけるとありがたいと思います。

「何となく」ではなく、自分がやりたいことを真剣に探そう。それには…

将来、自分は何をしたいのか、どんな仕事をしたいのか、中高生のうちからわかっている人は少ないかもしれませんが。しかし、「学校」というものを卒業したらほとんどの人は働くことになるでしょう。「やりたいことが見つからない」まま、何となく学校に行き、卒業後は何となく入れた会社で働いて、その結果、いやいや仕事をするようになるかもしれません。そうならないように、今から真剣に、自分がやりたいこと、なりたい自分を探してほしいと思います。

そこでまず心がけてほしいのが、「問題の発見」です。「問題の発見」とは、ネットニュースでも SNS でも新聞でも本でも何でもいいので、世の中を広く見渡して、今起きているニュースや問題に関心を持つてみることです。

例えば、不治の病に悩む人のニュースを見たら、「その病気を治すためには医学を学ばばいいのか、それとも薬学か」、よその国でずっと戦争をしていたら、「どうして戦争を続けるのか。その原因を学ばなら歴史学か、それとも政治学なのか」など。もっと身近なことで言えば、近所のスーパーで野菜の値段が高騰していたら、「天候不順のせいか、輸送費に関係するのか」というように、常に周囲の出来事に好奇心を持つようにして、まずは自分の興味関心の対象を探してみてください。

与えられるだけの側から、与える側になろう

みなさんが日々、時間を費やしているものは、全て誰かが作ったものです。みなさんはただそれを与えられ、使っているだけです。自分で生み出したものは、まだ何もありません。そのことを自覚したうえで考えてほしいのが、じゃあ、「自分が与える側になったら、何を提供できるのか」ということです。

お医者さんなら病気やケガを治すことができるし、ケーキ屋さんならおいしいケーキを作ってお客さんに提供することができる。買い物に行っておしゃれな洋服を見たら、自分で作って誰かに見てもらえとか、修学旅行で飛行機に乗ったら、自分がパイロットやキャビンアテンダントになったらどんなサービスを提供できるかなど、様々な職業を見ながら考えていくと、自分がやりたいこと、世の中に提供したいものが浮かんでくると思います。

「与えられたことをやるだけ」の将来に待っているのは、「与えられたことをこなすだけ」の仕事です。みなさんはそれでいいですか？ そうならないためには、今から自分ができることを積極的に探す努力をしてください。

仕事ができる人とは

今は国立大学でも、共通テストなしで入学できる総合型選抜・学校推薦型選抜を実施しています。書類選考や小論文、面接、総合問題など、点数以外の部分で評価されるようになりました。

なぜこのように変わってきているかというと、大学が、単に勉強ができる学生ではなく、大学で学んだことを活かして、「仕事ができる人になれる」学生を求めているからです。

政治・経済・医療・福祉、ビジネス、スポーツなど、どの分野においても、世の中では様々な問題が起こっています。そんな時代に求められ、仕事ができる人というのは、出された問題を解けるだけではなく、自ら問題を見つけて、その解決策を考えられる人です。多くの高校で探求学習が進んでいるのも、高校生のうちに世の中の多くのことに関心を持ち、課題を見つけ、成果を出せる人が求められているからなのです。

私の息子も現在高校2年生です。最近は息子とも少しは時間を共有できることもあり、色々な話題について話すことがあります。その時には少しこのような考えが持てるような「導き」ができるといいのですが…。